

2019年2月17日(日)
京都教育文化センター

明石市議会議員 辻本 達也

明石市の子育て支援施策とこれからの課題 ～こどもを核としたまちづくり～

はじめに

1 明石市の「こども総合支援」の取組み

○経済的負担の軽減 「3つの“無料化”」

- ① 保育料 ⇒ 第2子以降は完全無料
- ② 医療費 ⇒ 中学校卒業まで無料
- ③ 遊び場 ⇒ 親子ともに利用料無料(明石市外:1人1回300円)

○子育て環境の充実

- ① 保育所整備 ⇒ 待機児童ゼロをめざし定員拡大(今年度は2000名増)
- ② 少人数学級 ⇒ 30人学級の段階的实施(現在は小学校1年生)
- ③ 本のまち推進 ⇒ 図書館を駅前到新設(広さ4倍、蔵書数2倍、座席数3倍)

○セーフティネットの確立

- ✓ 離婚前後のこども支援(面会交流・養育費確保など)
- ✓ 児童扶養手当の毎月支給
- ✓ 無戸籍者支援
- ✓ 明石版“こども食堂”(全小学校区に開設)
- ✓ 里親100%プロジェクト
- ✓ 児童相談所の開設(2019年4月)

○虐待防止・社会的養育の充実

- ✓ 児童相談所開設
- ✓ あかし里親100%プロジェクト
- ✓ 児童養護施設と連携した養育支援

○早期の気づきと支援

- ✓ 妊婦全面接 妊娠期から子どもを支援

- ✓ 乳幼児全面接 子どもの健康を100%確認
- ✓ 明石版“こども食堂”全小学校区で開設

○学びを応援

- ✓ 中学校給食の全校実施
- ✓ 30人学級の導入
- ✓ 「本のまち」の推進

○寄り添う支援

- ✓ 離婚後の養育支援
- ✓ 児童扶養手当の毎月支給
- ✓ 無戸籍者支援

2 明石市のまちづくりの基本理念

- ✓ 全てのこどもたちを（支援の対象）
誰一人として見捨てない ⇨ ×貧困家庭限定にしない
- ✓ まちのみんなで（支援の責任主体）
行政と地域が一緒に ⇨ ×親だけの責任にしない
- ✓ こども目線で（支援の視点）
その子に寄り添う ⇨ ×行政目線や親目線で見ない
- ✓ 本気で支援（支援の内容程度）
あれもこれも本気で ⇨ ×予算にとらわれず柔軟に

3 成果と課題

○6つのV字回復

- ▶ 人口が増加 ⇒ その流れが長期間持続
H25.4：290,349人 ⇒ H31.2：298,557人 5年連続増加
・・・セールスポイントが分かりやすい「子育てするなら明石がお得」
効果を実感できる
- ▶ 効果が明確 ⇒ 人口増の特徴 子育て世代の転入増
20～30歳代と0～9歳の人口が大幅に増加（子育て世帯の転入増）
近隣他都市から続々

- ▶ 生まれる赤ちゃんの人数が増加
年間出生数 H26：2,570人 ⇒ H30：2,763人
- ▶ 交流人口増加 ⇒4割増
明石駅前の歩行者通行量 H27：19,650人 ⇒ H29年：28,140人
- ▶ 税収アップ ⇒ 21億円ノ
個人市民税・固定資産税・都市計画税が増収（H24年度比）
- ▶ 新築着工戸数増 ⇒ 4割増
H24：1,889戸 ⇒ H28：2,674戸

○心配の声もある

- ✓ 財政は、大丈夫なのか？
明石駅前再開発、給食センター（2か所）、子どもの医療費、保育所第2子以降無料、市内全小中学校の普通教室にエアコン設置 等々
「18年度に基金ゼロ」 ⇒ 財政健全化
- ✓ 医療費助成で医師が疲弊？
「コンビニ受診」拡大に対する懸念 「医療崩壊」につながるとの批判

○3つの課題

- 高齢者施策が足りていない
.....「子育て支援に偏り過ぎ」との声
- 人が足りていない
.....職員数削減方針（国の押しつけ）「仕事は増えているのに…」
- 維持管理経費が足りていない
.....道路・公園・学校・公共施設 「適正配置」も国の押しつけ

4 市民運動と党議員団が果たした役割 ～市民の声が政治を動かす～

○運動をけん引した新婦人の役割

- 署名運動・宣伝行動・議会への請願・行政へのはたらきかけ
.....請願審査のさいには、意見陳述も

○党議員団の役割

議会で質問、様々な機会を通じて要望

.....世論の声で行政の対応が変化 ⇒ 議会内でも認識が一致

例：中学校給食の場合

5 これから実現したいこと

- 子どもの医療費助成を高校卒業まで拡大（2～3億円必要）
- 給食の無償化（小・中学校で約10億円）
- 児童相談所の安定運営（4月開設）
- バランスのとれたまちづくりで、好循環をさらに継続・発展させる

6 まとめ